みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

あとがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008605

あとがき

本書は，2006年から３年間にわたって国立民族学博物館でおこなわれた共同研究会「マダガスカルの文化多様性に関する研究」の研究成果報告である。マダガスカルでながらく調査をおこなってきた研究者たちが一堂に集まり，その知見を交換するというかたちで，この研究会は進められた。

マダガスカルは，地域的にはけっして大きな領域ではないが，本書をつうじて述べてきたように，文化的にも生態的にもさまざまな要素が凝縮されている場所である。何度も足を運んできた研究者でさえ，通いなれた調査地を離れてはじめての土地へ行くと，新奇なことがらに出あい，学ぶべきことがらがまだたくさんあることを痛感する。こうしたマダガスカルの魅力が，文化人類学以外からの研究者をも民博に集めることができた理由だと思う。そのマダガスカルの魅力を伝えるのに，本書はけっしてじゅうぶんなものでないかもしれない。今後のさらなる個別研究と共同研究をつうじて，日本の読者にもそれが伝わるよう努力していきたいと思う。

共同研究会には，本書執筆者のほかに，池谷和信と吉本忍（以上，国立民族学博物館），伊達仁美（京都造形芸術大学），原野耕三（原野農芸博物館），堀内孝（写真家）がレギュラー・メンバーとして参加した。また，ゲスト・スピーカーとして湯浅浩史（東京農業大学）と藤田みどり（東北大学）をお招きした。さまざまな事情により，これらのかたがたの論考を本書に収められなかったのは，まことに残念である。これらのかたがたの貢献を紹介する意味もこめて，以下に研究会での発表題目を掲げておきたい。とくに明記のないかぎり，会場となったのは国立民族学博物館である。

第１回（2006年11月24日（金），25日（土））

吉本忍・伊達仁美・飯田卓「民博のマダガスカル関連資料について」

深澤秀夫「マダガスカルにおける民族学的研究領域論の系譜」

飯田　卓「文化的多様性を表象する ―― 研究の課題と展示の課題」

内堀基光「コメント」

第２回（2007年２月11日（日），大阪府豊中市 AI ギャラリー）

原野耕三「原野農芸博物館のマダガスカル関係コレクションと，マダガスカルの農耕文化について」

吉田　彰「マダガスカル文化の多様性の自然的背景」

第３回（2007年６月16日（土），17日（日），鹿児島県奄美市原野農芸博物館）

飯田　卓「マダガスカルにおける物質文化研究の可能性 ―― 伝播論，民俗技術論，創造論」

原野耕三「原野農芸博物館収蔵のマダガスカルコレクションについて」

第４回（2007年10月21日（日））

全体テーマ：マダガスカルにおける歴史と歴史意識

鈴木英明「ヌシベの興隆 ―― 19世紀における多重的背景の説明」

森山　工「マダガスカルにおける墓・歴史・国民意識」

第５回（2008年１月26日（土），27日（日））

全体テーマ：マダガスカルにおける植物文化の多様性

湯浅浩史「マダガスカルの伝統的植物利用」

崎山　理「マダガスカルにおける植物名称の意味変化」

飯田　卓「マダガスカルの有用植物 ―― とくに工芸素材について」

第６回（2008年５月10日（土），11日（日））

全体テーマ：日本とマダガスカルの交渉史

藤田みどり「明治期の文芸にみるマダガスカル表象 ―― 東海散士『佳人之奇遇』を中心にして」

深澤秀夫「植民地化以降の日本・マダガスカル交流史」

第７回（2008年６月28日（土））

全体テーマ：マダガスカルの文化継承

杉本星子「マダガスカルの森林資源と経済 ―― 野蚕・野棉の紡績・製織・流通システムをめぐって」

第８回（2008年10月13日（月））

全体テーマ：マダガスカルにおける伝承母体としての地域社会

伊達仁美「文化継承における学校教育の意義 ―― 博物館に伝わる有形財と，地域に伝わる無形財を橋渡す装置」

第９回（2009年３月15日（日），16日（月））

全体テーマ：マダガスカルにおける文化動態のとらえかた

飯田　卓「マダガスカルの造船と操船 ―― 文化的多様性への視点」

吉本　忍「マダガスカルにおける文化クラスター研究」

第10回（2009年７月11日（土），12日（日））

全体テーマ：マダガスカル南西部における民族誌的研究

池谷和信「マダガスカルにおける熱帯林の破壊と「森の民」―― 狩猟採集民ミケアの事例」

安髙雄治「マダガスカル南西部，タナラナの葬制と墓」

これら各発表者の研究は，さまざまな研究資金の利用によって可能になった。本文の謝辞と重複する件もあるが，それらを以下にまとめて記す。関係者のご支援に感謝した

い。まず，文部科学省の科学研究費補助金に関連したプロジェクトを記す。

- 「環インド洋西域諸社会における伝統の継承と創出 —— アジア・アフリカ・アラブ文化の同化と差異化」（1995〜97年度，国際学術研究，代表 長島信弘，07041008）
- 「マダガスカルにおける民族集団の生成論理と民族間関係」（1998〜99年度，国際学術研究／基盤研究 B，代表 内堀基光，10041013）
- 「地方独立制移行期マダガスカルにおける資源をめぐる戦略と不平等の比較研究」（2000〜03年度，基盤研究 A，代表 深澤秀夫，14251004）
- 「資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築」（2002〜06年度，特定領域研究，代表 内堀基光）
- 「境界の生産性とトランスナショナリティに関する文化人類学的研究」（2005〜08年度，基盤研究 B，代表 小泉潤二，17401036）
- 「マダガスカル南西部における焼畑耕作と住民の生存戦略」（2006〜08年度，萌芽研究，代表 安高雄治，18657079）
- 「会話と手話の相互行為分析に基づくマダガスカル言語文化の共通構造と差異の比較研究」（2007〜09年度，基盤研究 C，代表 深澤秀夫，19401041）
- 「物質文化を通じた新たなアフリカ像の構築 —— 国際協働による在来知と外来知の体系的検証」（2009〜12年度，基盤研究 A，代表 吉田憲司，21242034）

また，環境省からの研究資金としては，「熱帯林の減少に伴う森林劣化の評価手法の確立と多様性維持」（2009〜11年度，研究代表者 原田光，課題番号 D-0901）に関連した調査をおこなった。また，編者の所属する国立民族学博物館からは，文化資源研究プロジェクトとして「特別展示「大マダガスカル展（仮称）」実施のための調査」（2007年度）および「マダガスカルの文化的多様性とその現代的展開に関する資料収集」（2008〜09年度）をおこなったさい，関連した調査を遂行した。執筆者のひとりが所属する関西学院大学からも，「マダガスカル南西部における葬墓制とフードセキュリティに関する人類生態学研究」（2010年度個人特別研究費 A）による支援を受けた。

関係各位に深くお礼申しあげる。今後は，今回の研究会で得られた知見をいっそう広範な読者に紹介していきたい。